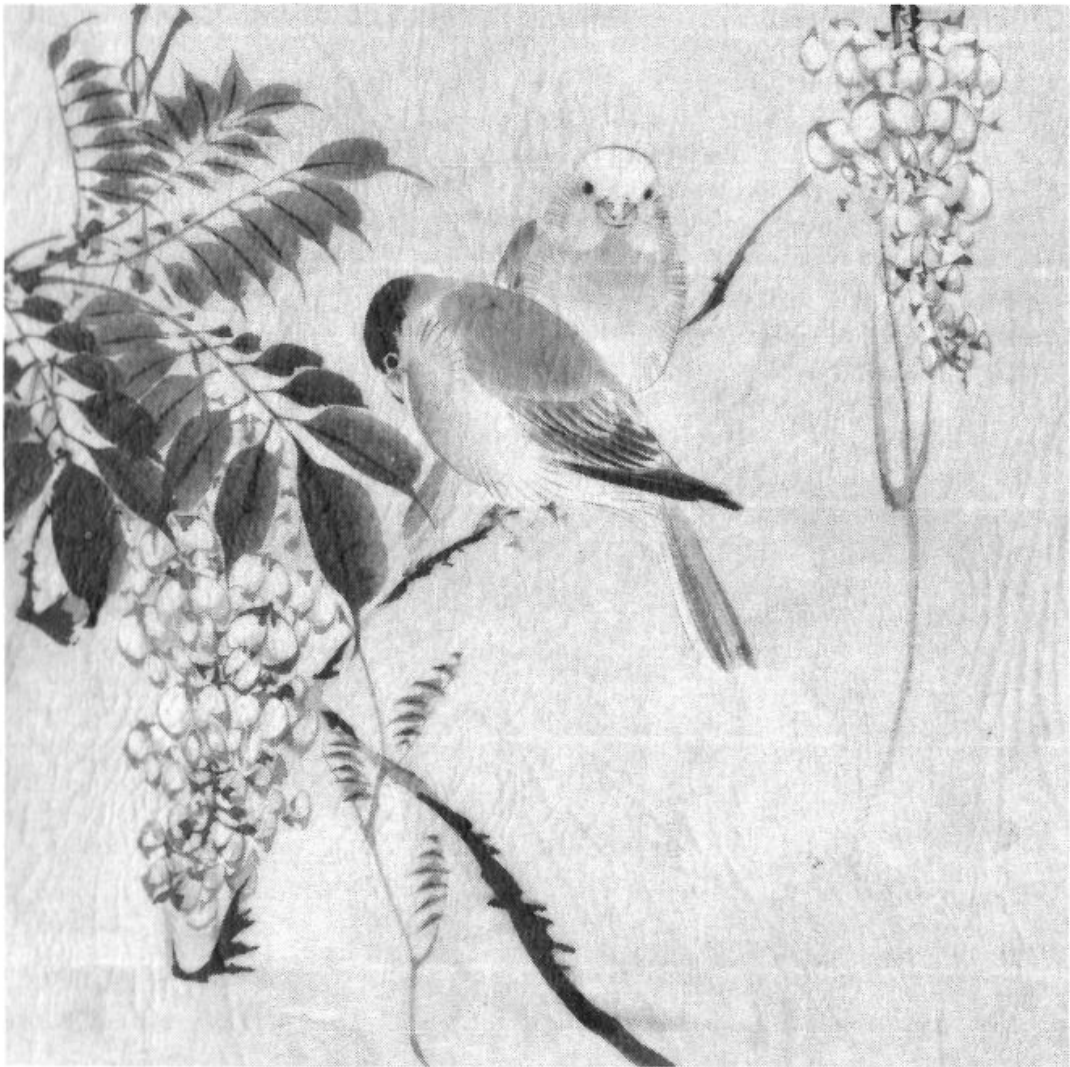


東京工業大学

窯業同窓会会誌

1987年11月



旭 烧 原 画

二期目の会長をお引き受けするにあたって

田賀井 秀夫 (昭 13)

中山一郎前会長の後の窯業同窓会長をお引き受けして2年が経過しましたが、去る5月13日に名古屋で開催された総会の席上で、さらにもう一期務めるようにということになりました。つきましては非力ではありますが、先輩各位と後輩諸氏のご協力を得て2期目の任期を全うさせていただきたいと存じます。

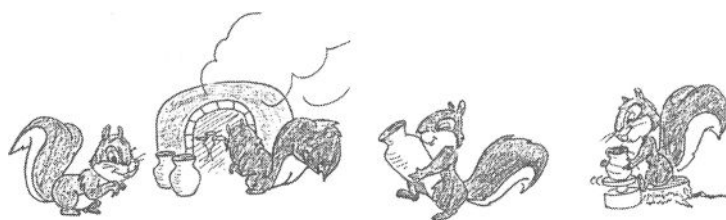
同じ総会の席上で、任期中に名簿を発行するために必要なデータベースを整備することが決議されました。これに基づいて、事務局では来夏頃に懸案の名簿を発行できるように鋭意準備中です。名簿の刊行には会員の住所など正確な情報が何よりも必要です。同封のカードに必要事項をご記入の上返送されるよう、特にお願いする次第です。

それから、同窓会の運営に必要な経費は、従来は少数有志の寄附による事業資金に頼っていましたが、これについても再検討することが必要と考えます。名簿の管理にコンピュータを導入すると会費の徴収・



催促などの事務処理が多少は楽になりますので、会員の連帯感を強めるためにも、この機会に会費を徴収して会の運営を行うようにしてはと考える。この件につきまして来年1月の臨時総会で会則の改正をおはかりしたいと考えますので、ご意見をお寄せ下さい。

終わりに、前回の総会と懇親会でお世話になった東海支部の役員の方々にお礼申し上げます。



森谷太郎先生の思い出

境野 照雄 (昭 17)

太平洋戦争が終り、池田にあった陸軍の光学ガラス工場から東京にもどって、初めて先生にお目に懸かったのが、大学の本館1階59号室で、終戦の年の12月のことだったろう。その時、戦争のこと、教育のこと、研究のこと、文化のこと等、日頃お考えになっていたことを、熱情をこめて堰を切ったように話された。いろいろ伺っているうちに陽が落ちて、部屋が暗く



なったけれど、電灯をつける間もないまま闇の中で夜遅くまで話し込んでしまったことを、いまでも鮮明に憶えている。それから数えるところちょうど41年のお付き合いになる。

先生は長岡高工では電子工学を専攻しておられたせいか、数学が得意で、その頃、とくに統計熱力学に打ち込んでおられた。また、講義では量子力学に長い時間を割かれ、私も学生に混じって頭を振りふり真剣に聞かせて頂いた。ガラスの微相説は、長年の間ウォーレンの連続網目構造説に親しんできた、内外の学界に大きな波紋を投げかけた。

印象が深いのは、その頃、日本光学の長岡正雄社長と協力して、国際ガラス会議 (I. C. G.) に窯業協会をメンバーとして加え、また、その年會を日本に招致するよう努力されたことだ。勿論セラミックス関係では初めての試みだったし、材料の分野でも先例はほとんどなかったもので、内外の交渉に大変な努力が必要であったが、さいわい学界、業界の協力のもとに、組織づくりも旨くいって、1966年の秋、協会主催でI. C. G. 年會を開催し、大成功をおさめた。

先生は、群馬県の出身で、千葉県佐倉中学、長岡高等工業を経て、本学窯業学科を昭和7年にご卒業後、助手になられたが、同14年、国際

電電の研究所に移り、戦後、母校に教授として迎えられた。以後、教育、研究に献身され、その他、工業材料研究所所長、政府関係の各種審議会、委員会の委員、そのほか窯業協会長、日本材料科学会会長などを歴任された。その間、窯業協会学術賞、同功労賞および、藍綬褒賞を得、昭和41年退官に際して母校の名誉教授の称号を授与され、また51年には勲三等に叙され、旭日中綬賞を授けられている。先生の研究業績は、研究論文113編、著書は「粒子系の性質とその適用」(窯業協会)他5編、特許13件。

退官後、東京理科大学に迎えられ、工学部長在職中、学園紛争の解決に腐心の余り体調を崩されたと伝え聞いている。昭和59年から講義もやめ、悠々自適の生活に入られたが、昭和61年11月14日、ご夫妻で買物から帰られた直後に倒れ、病院に運ばれたが心筋梗塞で逝去された。

菩提寺は山形市北山形2-3-11

正覚寺・菊田円順師 (電話 0236-43-9049)

ご遺族 森谷礼子様

〒201 東京都拍江市東野川1-22-5

江副勇馬氏を偲んで

川浪 重年 (昭和25)



郷里有田の先輩で、大学の先輩でもあり、会社では上司として、公私に亘ってご指導を頂きました江副勇馬氏が亡くなられたのは、本年2月11日、建国記念日の朝でした。

奥様やお子様が見守られ、安らかに満84才の天寿を全うされたと伺っております。

氏は郷里の有田工業をご卒業後、一時、大阪工業試験所に勤務されましたが、向学の念押し難く、東京高等工業窯業科へ進み、大正14年ご卒

業とともに東洋陶器(株)〔現在の東陶機器(株)〕に入社され、衛生陶器および、当時生産していた食器を含め、技術全般をご担当になり、同社の今日の発展の基礎を築かれました。なかんずく、氏の長年に亘る生産現場でのご経験と内外の調査結果により、衛生陶器焼成用トンネル窯の改良の必要性を痛感され、独特の機構をもつ直火式トンネル窯を自ら設計し、その実用化に成功されました。氏の考案された新方式は、当時世界的に主流を占めていたマッフル式の衛生陶器焼成用トンネル窯の問題点を一挙に解決する画期的なものでした。

昭和 38 年からは、取締役副社長として経営全般に参画されましたが、昭和 40 年には、衛生陶器製造技術の飛躍的な向上の成果が認められ、窯業協会技術賞を受賞されました。

昭和 44 年にご退社後は、同社顧問として後進の指導育成に尽されます一方、小倉ロータリークラブ理事として、地域社会への奉仕活動にも積極的に当られ、昭和 49 年には長年に亘る業界へのご功績により、勲三等瑞宝賞叙勲の栄に浴されました。

氏は実直で、人情味の厚いお人柄であります一方、仕事には極めて厳しく、理想主義者であると同時に、現場現物主義のお方でもありまし

た。私どもも仕事の進め方の不徹底さなどを指摘され、大目玉を頂くこともたびたびございましたが、決してあとにしこりを残さない細かい気配りをしておられることを強く感じておりました。

お若い頃から健康そのもので、お名前の通り元氣潑刺としたお方でしたが、ここ 1~2 年はやや体力に衰えを感じておられたらしく、好きなゴルフもおやめになり、奥様やお子様と交えての家族マージャンが何よりのお楽しみだったようです。

昨年 11 月に食欲不振を訴えられてご入院、年末には一度退院されましたものの、本年 1 月末に再入院され、ご家族の皆様方の手厚い看護の甲斐もなく、不帰の客とされました。

2 月 13 日のご葬儀には、故人のご生前のお人柄ご功績を偲び、1,300 人余の多くの方が会葬されたと同っております。

故人に長い間ご薫陶を賜りました後輩の 1 人として、心からご冥福をお祈り申し上げる次第です。

* * * * *

ご遺族現住所：

〒802 北九州市小倉北区足立 3 丁目 6-23

昭和 61 年度収支報告

自 昭和 61 年 4 月 1 日～至 昭和 62 年 3 月 31 日

収入

前年度繰り越し金	2,116,544
総会・懇親会会費	270,000
新年懇親会会費	300,000
事業資金寄付(個人)	938,000
銀行利子	10,381
合計	3,634,925

支出

懇親会(2回)実費	606,330
卒業 50 周年記念品代及び送料	66,950
印刷代(会誌、振込用紙等)	484,700
通信費(会誌発送、連絡・通知等)	388,160
その他	39,279
次期繰り越し金	2,049,506
合計	3,634,925

昭和 61 年度事業資金寄付者芳名 (敬称略)

35,000 円	水野茂樹				久保寺正二、鯉江七郎、小泉善之助、
30,000 円	石塚正信、 山内俊吉	笹沼宗一郎、森谷太郎、			小島豊之進、近藤建一、齋藤勝一、
20,000 円	真保義郎、 長崎 勸、	田上嘉秋、 西田一雄	中山一郎、		塩川 皓、塩田政利、柴山景介、
15,000 円	江副勇馬、 田賀井秀夫、	河嶋千尋、 中沢三知彦、	川浪重年、 吉田一栄		鈴木弘茂、宗宮重行、左右田孝男、
10,000 円	赤沢次男、 遠藤幸雄、 加藤誠軌、 倉田 貢、 佐多敏之、 田中博一、 長谷川安利、 森本孝治	飯塚誠厚、 太田千里、 亀井四郎、 小柳道男、 佐野川建、 名取賢荘、 福井 哲、	稲村 泰、 大津賀望、 菊池 央、 境野照雄、 杉浦正敏、 埜崎堅造、 毛利良雄、		田辺靖博、田畑精一、利根川洋、 内藤 繁、中村純一、中村義郎、 長岡為行、並河 洋、長谷川泰、 原田 賢、福長 脩、藤井豊男、 丸茂文幸、村上光一、守吉佑介、 安竹了和、安田榮一、山内尚隆、 山本 登
8,000 円	内山浩、	田中廣吉			4,000 円 江尻寿憲、森川日出貴
7,000 円	常泉徳次、	吉村昌弘			3,000 円 市古忠利、猪股吉三、今間朋春、
5,000 円	青木 斌、 安保英司、 入江日出男、 内田健治、 大矢克吉、 尾野勇雄、	赤尾洋二、 居上英雄、 岩切一良、 梅田夏雄、 岡本祥一、 開沼章夫、	浅野正和、 井関孝善、 岩田俊喜、 江口民行、 小坂丈予、 木村脩七、		江上浩二、近江成明、木島式倫、 熊代幸伸、後藤九五、笹本 忠、 渋谷益男、関口 淳、高木喜樹、 高橋紘一郎、竹沢義郎、田畑勝弘、 田村信一、塚本 行、出口 茂、 友田正雄、中川順吉、中川善兵衛、 中村周清、長谷貞三、速水多根雄、 平林順一、古海宏一
					2,000 円 井上圭吉、外川 進、酒井利和、 見勢信猛、三宅通博、張鴻 烈

窯業同窓会規約改正案

1. 本会は窯業同窓会と称する。
2. 本会は会員相互の親睦を図り、窯業界の向上発展を期することを目的とする。
3. 本会は事務所を東京都目黒区大岡山東京工業大学内に置く。
4. 本会は以下の事業を行う。
 - (1) 会誌の発行
 - (2) 名簿の発行
 - (3) その他幹事会が必要と認めた事業
5. 本会会員は東京工業大学の窯業関係者で組織し、**会員は所定の会費を納入する。**
6. 本会の経費は、**会費**、会員その他からの事業寄附金、その他の収入で支弁する。
会計年度は毎年 4 月に始まり翌年 3 月に終わる。
7. 本会は毎年総会を開いて以下について審議する。
 - (1) 会務の報告
 - (2) 役員の変更
 - (3) 規約の改正
 - (4) その他
8. 本会に以下の役員を置き、任期は 2 年とする。ただし再選は差支えない。
 - (1) 会長 1 名
 - (2) 副会長 若干名
 - (3) 幹事 若干名
 - (4) 常任幹事 若干名
9. 会長、副会長および幹事は総会で選出する。常任幹事は幹事の互選とする。
10. 会長は本会を総理し、副会長は会長事故あるとき代行する。常任幹事は会務(庶務、会計)を処理する。幹事は本会の重要事項を審議し、地方各職場、クラス等の状況および本会に対する意見を本部に連絡する。

11. 本会は名誉会長および相談役を置くことができる。名誉会長と相談役は役員会で推薦して総会で承認を得る。

12. 本会に支部を置くことができる。支部は本部と連絡を密にして会の発展に協力する。

規約改正後の内規

1. 工学部無機材料工学科の卒業生と大学院無機材料工学専攻の修了者（それ以前の、これに準ずる卒業生を含む）を会員とする。
2. ①本学の教官、②本学の他学科、他専攻の出身者、および③本学以外の出身者で、本会との関係が深く、入会を申し込まれた方も会員とすることができる。ただし、本項の会員で

一定期間連絡がなく、会費を納入されない方は除籍することができる。

3. 年会費は2000円（名簿代を含む）とする。年会費を超える納入金はその年度の事業寄附金にあてる。会費を納入しない会員には名簿を送付しない。

太字が改正点です。

大岡山だより

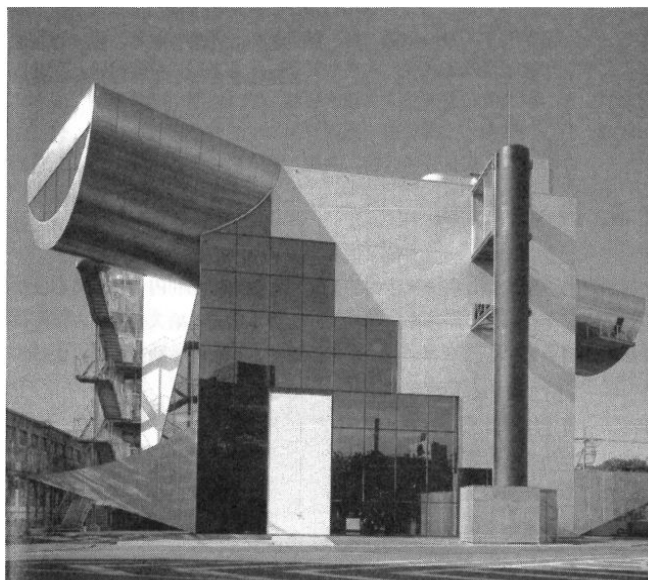
常任幹事 加藤誠軌

大岡山の話題は、何といても万博のパピリオンのような奇妙な形の百年記念館です。建物の4階はトンネルのように細長い食堂です。3階には談話室と70名を収容できるフェライト記念会議室があり、2階には小会議室が数室あります。1階は広々とした空間で、地階には特別展示室と収蔵庫があります。

ワグネル関係の資料、平野陶磁器コレクション、河井寛治郎、浜田庄司、各務鉦三の作品などが、特別展示室の目玉です。

この一年間における無機材料工学科の職員の移動は次の通りです。まず、長年に亙って学生実験を担当していただいていた上西義介さんが3月に定年退職されました。5月には、福長脩先生が結晶質材料講座の教授に就任されました。10月には、後藤誠史さんが山口大学工学部の助教授にご栄転になりました。11月には、新進の谷口尚さんが結晶質材料講座の助手に採用されました。

12月は師走です。先生方も大忙しですが、学生諸君も連日頑張っています。今年度の修士論文発表会は2月16日（火）、卒業研究発表会は2月26日（金）です。卒論発表の晩は例年のように手造りのおでんやサラダを囲んで一大コンパです。先輩諸兄の参加と差し入れをお願いします。



東京工業大学百年記念館

無機材料工学専攻（博士課程）修了者（昭和 61 年度）

氏名	研究室	博士論文題目	進路
池本 正	加藤 水谷	単分散セラミックス微粒子の合成と焼結に関する研究	新日本製鉄(株)

無機材料工学専攻（修士課程）修了者（昭和 61 年度）

氏名	研究室	修士論文題目	進路
大久保総一郎	山根 川副	電子伝導性ハロカルコゲナイドガラスの合成	住友電工(株)
高橋利和	山根 川副	ゾル-ゲル法による屈折率分布型レンズの作製	旭硝子(株)
中崎健志	山根 川副	ZnCl ₂ -KBr-PbBr ₂ 系ガラスの赤外透過特性	富山県教員
橋本知孝	加藤 水谷	(La, Ca, Sr)MnO ₃ 単結晶の育成と電気的性質	旭化成工業(株)
鶴沢克久	加藤 水谷	CVD 法による窒化チタン薄膜の合成	出光興産(株)
劉 天泉	加藤 水谷	噴霧熱分解法による酸化物微粒子の合成と生成機構の解析	博士課程進学
八木 健	加藤 水谷	AlN 焼結体の熱伝導性に及ぼす添加物の影響	博士課程進学
阿知波達雄	木村 松尾	TiO ₂ の機械的性質に及ぼす粒径の影響	日本電気(株)
小笠原俊夫	木村 松尾	セラミックスの曲げ強度に及ぼす切削加工の影響	日産自動車(株)
北林徹夫	木村 松尾	脆性材料の熱衝撃抵抗性評価	東陶機器(株)
樽田誠一	大津賀 岡田	粒度の異なるアルミナ混合粉体の焼結	博士課程進学
林 滋生	大津賀 岡田	Diopside セラミックスの作製と評価	博士課程進学
天野 勉	大門	CaO-Al ₂ O ₃ -SiO ₂ ガラスの水和反応	キリンビール(株)
碓井俊一	大門	Ca(OH) ₂ -シリカフェーム系の水和反応	ブリヂストン タイヤ(株)
下嶋浩正	井川	ZrTiO ₄ の相転移と熱膨張におよぼす各種固溶イオンの影響	日本セメント(株)
中島 章	井川	Influence of Grinding on the Microstructure of Tetragonal Zirconia Polycrystals in the ZnO ₂ -CeO ₂ -Y ₂ O ₃ System	日本鋳業(株)
門馬 旬	井川	Gd ₂ O ₃ -CeO ₂ -ZrO ₂ 系正方晶ジルコニアの研究	(株) 東芝

無機材料工学科（学部）卒業生（昭和 61 年度）

氏名	研究室	卒業論文題目	進路
岩崎光伸	山根 川副	ゾル-ゲル法による Al ₂ O ₃ 系ガラスの作製	修士課程進学
押切光丈	山根 川副	ガラス表面の窒化に関する研究	修士課程進学
篠沢太郎	山根 川副	アルコキシド法によるゲルの熟成時における構造変化	修士課程進学

矢野哲司	山根 川副	重金属フッ化物ガラスの粘度に関する研究	修士課程進学
角野裕康	加藤 水谷	分析電顕による PZT の組成変動の測定	修士課程進学
小林幹雄	加藤 水谷	CVD 法による窒化タンタル薄膜の合成	修士課程進学
西山 伸	加藤 水谷	酸化物半導体のゼーベック係数の測定	修士課程進学
宮内昌明	加藤 水谷	超音波噴霧熱分解法による PZT 球状微粒子の合成	修士課程進学
石崎雅人	木村 松尾	黒鉛の機械的性質に及ぼすピッチ含浸の影響	修士課程進学
田辺 浩	木村 松尾	CVD-SiC 皮膜沈積による炭素材料の強度向上	修士課程進学
谷 淳志	木村 松尾	炭素繊維の引張り強さと微構造との相関	修士課程進学
西村聡之	木村 松尾	成形体の密度に及ぼす動的 CIP の効果	修士課程進学
滝川賢司	大津賀 岡田	アルミナの焼結におけるスポデューメン・リン酸カルシウムの影響	修士課程進学
野村克己	大津賀 岡田	ムライト-酸化クロム系セラミックス	研究生
安岡正喜	大津賀 岡田	河合陶石中の石英について	修士課程進学
市原高史	大門	200°C以下の水溶液反応による PZT 結晶の合成	修士課程進学
島 裕和	大門	セメント硬化の炭酸ガス吸収速度	修士課程進学
田中哲也	大門	高炉水砕スラグのアルカリ骨材反応の防止効果	修士課程進学
中村好一	大門	セメント硬化体の強度および弾性率	修士課程進学
井口裕二	井川	クリストバライトの相転移温度に及ぼす固溶イオンの影響	修士課程進学
榎本尚也	井川	窒化ケイ素焼結体研削面の観察	修士課程進学
戒能健史	井川	Na _{0.5} K _{0.5} NbO ₃ -BaNb ₂ O ₆ 系固溶体の合成と電気的性質	修士課程進学
山田俊幸	井川	チタン酸ジルコニウムの相転移	修士課程進学
片桐 真	井関 丸山	SiC の接合におけるろう材中の Ti の役割	日産自動車(株)
佐々木一成	井関 丸山	SiC 焼結体における中性子照射損傷の回復	修士課程進学
谷口碩士	安田	CG/GC 複合材における厚肉ブロックの試作	修士課程進学
福山洋平	澤岡 近藤	黒鉛と窒化ケイ素の衝撃圧縮効果	修士課程進学
桂田建志	澤岡 近藤	炭化ケイ素系セラミックスの衝撃破壊特性	新日本製鐵(株)
西岡正雄	宗宮 吉村	アークイメージ加熱による TiC _x N _{1-x} および ZrC _x N _{1-x} 粉体の合成	修士課程進学
早川 信	宗宮 吉村	ZrN および ZrC 粉末の水熱酸化	修士課程進学
鈴木敦則	丸茂 森川	YbRh ₃ B 中の電子分布の研究	修士課程進学
竹中康之	丸茂 森川	X線回折法による石英中の結合電子に関する研究	修士課程進学
川崎克己	中村	BiFeO ₃ 非晶質体の作製とそのキャラクタリゼーション	修士課程進学

長津田・工業材料研究所便り

宗宮重行（昭和 27）

工材研創立 50 周年の募金による記念出版、環境整備の一貫として進めていた研究所周辺の植樹、山内俊吉先生御寄贈の学会誌、金丸豊之助先生御寄贈の Backnumber 等を含めた資料室の整備なども完了しました。この紙面をお借りして御礼申し上げます。

人事に関しては、本年 4 月より未利用資源材料開発（客員）には岡島達雄教授および鎌田英治助教授を併任でお迎えしております。昨年度末に公募された材料プロセス部門の無機焼成材料並びに超高真空材料の教授として、本年 9 月 1 日付けで無機焼成材料の教授には今井久夫助教授が昇任され、超高真空材料の教授には 9 月 16 日付けで東京大学工学部の鯉沼秀臣助教授をお迎えすることになりました。鯉沼先生には工材研の弱点とされていた薄膜関連の分野の充実が期待されています。

尚、本年 7 月 17 日には材料基礎部門（材料構造解析）助手の湊一郎氏が退職され、日本エックス線（株）に移られました。

最近の人事の移動は激しく、世代交代の大きな波が押し寄せております。先の話にはなりますが、来年 3 月には工材研所長の黒正清治教授、材料構造解析の星野芳夫教授、並びに新素材セラミック実験施設の宗宮の 3 名が定年で退官する予定であります。

この他、臨調や臨教審に関係して、大学の付置研究所改廃の波が押し寄せておりますが、工材研としては大部門制の採用に踏み切ってから 6 年の歳月が過ぎましたので、時代の流れに即応した研究部門の増設並びに研究分野名の変更等、長期計画を再検討しつつあります。

材料科学専攻（博士課程）修了者（昭和 61 年度）

氏名	研究室	博士論文題目	進路
黄 啓祥	中川	チタニアを添加したアルミナセラミックスの微構造と機械的性質に関する研究	台湾 成功大学
曾我眞二	澤岡	高速飛翔体の衝突による炭化物・窒素物セラミックス粉末の緻密化とアルミニウム合金の変形挙動に関する研究	防衛庁
金 淳浚	安田	バイクリスタルによるマグネシアの粒界構造に関する基礎的研究	韓国 浦項製鉄
谷口 尚	澤岡・近藤	金属およびセラミックス粉体の衝撃波伝播特性と衝撃圧縮機構に関する研究	東工大

材料科学専攻（修士課程）修了者（昭和 61 年度）

氏名	研究室	修士論文題目	進路
坂田修身	橋爪	微小入射角条件における動力学的 X 線回折とその表面界面構造研究の応用	博士課程進学
杉浦正代	中川	ムライトセラミックスの焼結過程に関する研究	博士課程進学
濱崎景久	安田	炭素被覆 SiC ウィスカー/Al ₂ O ₃ 複合体の機械的特性	本田技研工業(株)

町野 洋	安田	炭素繊維/熱硬化性樹脂炭複合材料によるマトリックスの黒鉛化挙動	三菱化成工業(株)
川東孝至	近藤 澤岡	ダイヤモンドの CVD 合成に及ぼす対流の影響と酸素添加の効果	東京ガス(株)
澤井澄一	近藤 澤岡	ダイヤモンドの衝撃焼結性	博士課程進学
柳 承乙	宗宮 吉村	ニオブの水熱酸化およびニオブ、ジルコニウムの水熱陽極酸化	博士課程進学
加瀬準一郎	宗宮 吉村	Si ₃ N ₄ 及びSiCの水熱雰囲気下における酸化と腐食	旭硝子(株)
川端勝一	宗宮 吉村	水熱条件下におけるイットリウム添加正方晶ジルコニアセラミックスの劣化挙動	小西六(株)
三池田 修	中川	高純度マグネシアセラミックスの低温焼成	三菱鉱業セメント(株)
金 龍生	中川	アルミナ焼結体の粒界移動	博士課程進学
宇都宮 明	丸茂 森川	マグネトプランバイト型化合物 CaAl ₁₂ O ₁₉ の結晶構造解析	三菱化成工業(株)
馬淵 威	森川 丸茂	第一遷移金属イオンを添加した珪酸塩ガラス及び融体の構造	電気化学工業(株)
清水川 豊	森川 丸茂	GeO ₂ -P ₂ O ₅ 系ガラスの局所構造に関する研究	博士課程進学
松下義昭	斎藤 阿竹	金属アルコキッドから合成した二酸化チタンの熱化学的キャラクターゼーション	東京電力(株)
伏塚英一	斎藤 阿竹	湿潤雰囲気におけるステンレス鋼の異常酸化	東京ガス(株)
北村俊樹	中村	ペロブスカイト型酸化物 LnAlO ₃ (Ln=La, Md, Sm, Eu, Gd, Tb, Dy) のマイクロ波帯における誘電的性質	リクルート(株)
六川庄一	星野	帯熔融法による金属ビスマスの精製	日本鋼管(株)

原子炉だより

井関孝善（昭和 38 学）

原子炉工学研究所は昭和 61 年 4 月で創立 30 周年を迎えました。この間原子力平和利用の研究を推進してきたわけですが、核分裂に加え、核融合という新しい研究分野の比重が増し、又、研究者の世代交代もあり、このあたりで新世紀を切り開く新しい活力のある研究機関となるべく組織の見直しが行われております。

我々の所属する原子炉燃料部門は、職員に変動はなく、教授 井関孝善、助教授 丸山忠司、助手 矢野豊彦、技官 今井雄三で構成されております。鈴木弘茂名誉教授のご努力で作られた高温核燃料要素実験室をニュークリアセラミックス実験室に転換すべく、昭和 63 年 3 月終了予定で、建物の改修及び諸実験装置の整備が行われています。

原子核工学専攻（修士課程）修了者（昭和 61 年度）

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
鈴木哲也	井関 丸山	中性子照射した SiC の回復挙動	博士課程進学
平岡春生	同上	中性子照射した炭化ケイ素における陽電子寿命測定	三菱鉱業セメント㈱

エネルギー科学専攻（修士課程）修了者（昭和 61 年度）

氏名	研究室	修士論文 題目	進路
笠原茂樹	井関 丸山	中性子照射した炭化ケイ素の電子スピン共鳴法による損傷評価	日立製作所㈱
田畑浩文	同上	炭化ケイ素とステンレス鋼の接合における力学的評価	日本航空㈱

昭和 62・63 年度窯業同窓会役員名簿

会 長	田賀井秀夫	埜崎堅造、	奥田 博、	小出儀治、
名誉会長	山内俊吉	梅田夏雄、	藤井重信、	太田千里、
副会長	素木洋一、	田中廣吉、	遠藤幸雄、	古賀義根、
	田端精一	境野照雄、	鈴木弘茂、	毛利良雄、
相談役	石塚正信、	倉田元治、	田中博一、	福浦雄飛、
	大石信男、	中山一郎、	利根川洋、	加藤 鈔、
	斎藤進六	田辺三郎、	山本 登、	杉浦孝三、
常任幹事	加藤誠軌、	長崎 勸、	吉田一栄、	川浪重年、
	山根正之、	名取賢荘、	佐野川健、	菊地 央、
	大門正機、	安田榮一	各務芳樹、	浅野正和、
幹 事	左右田孝男、	尾野勇雄、	成瀬備一、	宗宮重行、
	尾沼宗一郎、	笹沼宗一郎、	宇田川重和、	福井 博、
	長崎準一、	田上嘉秋、	安竹了和、	堀江 勲、
	居上英雄、	福井 哲、	山本博孝、	矢島一治男、
	島岡達三、	加藤政良、	原田 賢、	吉野成男、
	田中 弘、	奥田 進、	佐野和夫、	中村 敦、
	佐野和夫、	赤沢次男、	鈴木哲夫、	青木 進、
	藤井豊男、	小坂丈子、	鯉江七郎、	長谷川安利、
	倉田 貢、	大場立夫、	水谷惟恭、	尾野幹也、
	井関孝善、	木村脩七、	星野芳夫、	吉村昌弘、
	丸茂文幸、			武 孝夫、
				大津賀望、
				中村哲朗、
				今井久夫、
				斎藤安俊、
				井川博行、
				中川善兵衛

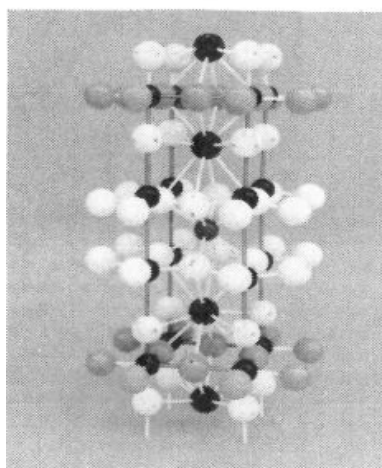
旭焼額皿

1893



日本の伝統的な絵画様式をもつ芸術性の高い陶器である。一般の上絵付け色絵陶器とは違って、透明釉の下に色絵具で細密に描画してある。ワグネルは明治16年からこの研究に着手し、はじめは吾妻焼と呼んだが、同18年に設備を東京職工学校に移して旭焼と改称した。旭焼の研究開発は助手の植田豊橘（後に教授）が、絵付けは荒木探令と春名錦山が担当した。同23年、深川区東元町に旭焼製造所ができて、額皿や花瓶、装飾タイルなどを製造した。旭焼は展覧会で度々入賞して顯官や豪商の邸宅を飾ったが、製造が難しくて経営難となり、明治27年に工場が閉鎖された。

1987



最近話題の
超電導セラミックスの結晶構造
 $Ba_2YCu_3O_{7-y}$

住所変更などのご連絡は下記へお願いします。

152 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学工学部無機材料工学科
加藤研究室（石川台4号館）気付
窯業同窓会事務局
TEL 03-726-1111(内) 2518
FAX 03-729-0393

事業資金のご送金は下記あてにお願いします。

銀行振込の場合

第一勧業銀行大岡山支店普通預金口座 1257281
東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学内
窯業同窓会山根正之

郵便局振込の場合

口座番号東京 0196855
窯業同窓会